

第4回震災伝承検討会議 概要

日 時：平成29年1月17日（火） 午後6時～午後8時

会 場：石巻市役所6階 第3・4議会委員会室

概 要：

- (1) これまでの「震災伝承検討会議」を振り返りについて
 - ・第1～3回「震災伝承検討会議」で出された意見等について確認した。
- (2) 今後の震災伝承等に関する協議について
 - ・震災伝承計画（素案）をもとに、主に「組織」「震災伝承の基本的な考え方」等について意見を交換した。

会議での主な意見

- ・組織は市民が主役で、それを行政がサポートする形が良いのではないか。
- ・専門の新組織をつくっても永続的に続けていくことができるのか疑問だ。官民で一緒にやるのは大事だが、あくまで石巻市が中心であり、市に核となる専門部署を設けて体制をつくるべき。
- ・震災伝承には専門性、発信力、コミュニケーション力等が必要。中越や兵庫でも実態として半官半民でやっている。市長や市議が変わっても大事なこととして、あえて外に出すという考え方。
- ・組織や計画自体をつくり変えながらその時々でベストの方法を選択していく、ということの基本方針に入れてほしい。
- ・ネットワーク型で、組織のあり方自体を自分たちで定義し深化していくと示せたら良いと思う。
- ・行政は行政の役割があるが、一人一人の経験や思いを伝える部分を担うのは民間の力。第三者的な、半官半民の、幅を持たせた組織をつくることに意義があるのでは。
- ・最初からがっちり固めるのではなく、様々な意見を吸収できる柔軟い組織にしないといけない。
- ・5千人近くの人が亡くなったのだから、「二度とあってはならない」という決意を込めなければならないが、素案にはそれが抜けている。熱い思い、意思を感じられる決意表明がほしい。
- ・語り部が伝えているのは「あの時助けられなかった命」、辛かった思いだが、素案は今からの命を守ることしか書いていない。
- ・基本理念にいっぱい入れればいいが、入れすぎると伝わらない。何のために、誰に、何をという部分はいらぬが、今くらいのボリュームで熱を感じられる言葉を考えなければならない。
- ・行政文書的に切り分けるとうまくいかないように思う。「なぜ民間が入るべきか」「個人の失敗をなぜ回収すべきなのか」といった、「なぜ」を回収できていない。構造をしっかりとる。
- ・一方的に「伝えます」という表現からもう一步踏み込んで、「巻き込んで実現していく」「受け取ってもらうところまで責任を持つ」というニュアンスを入れられると良いと思う。
- ・この計画と遺構計画を強力に進めるには条例が必要。理念を行政が考え、議会で揉んでもらわなければならない。今の議論では最も基本となる遺構をどう保存するかについて裏付けがない。
- ・「大切な命を守る」というのは「助かる命を増やす」ということだと思う。東日本大震災は本来助かる命がたくさんあった災害だった。「大切な命」をインパクトのある言葉にしたら伝わるのでは。
- ・この場では雰囲気でも共有しているが、理念について「こういう理由でこの文言にした」など分かれば後々伝えていく上で良いのではないかと思う。添付書類をつけるしかないか。
- ・子供や市民にわかるような表現にする。基本方針をもっと「私たちがやるぞ」という表現にする。
- ・基本理念は大元になるものであり、短く強いイメージにしたい。短くした分、柔らかくいろんな意見がぎゅっと集約されていて、反映されている柔軟性のあるものに仕上げなければならない。